



## オーン・ハーバー

2013年更新

南緯64度38分、西経62度33分—ジェルラシ海峡、オーン・ハーバーの南部湾曲地域

### 主な特徴

- ・ エレラ海峡、ジェルラシ海峡、アンフェルス島及びブラバント島を望む見晴らしの良い展望地までの中程度の傾斜面
- ・ 大陸への上陸
- ・ ヒゲペンギンのコロニー、コケ類及び地衣類
- ・ 水域から見られるズグロムナジロヒメウのコロニー

### 概要

#### 地形：

上陸地点は、オーン・ハーバーの南部湾曲部の内側にある鞍部の低地にある。この地区は、がれ場の傾斜と万年雪の帯の下に広がる岩場の海岸線であり、鞍部を登って行くとエレラ海峡とジェルラシ海峡を見渡すことができる。鞍部の南側は、深い万年雪と氷で覆われている。鞍部からは、急斜面の尾根がスピゴット峰と呼ばれる突き出した岩質の岬へと続く。ハーバーは、氷河と険しい峰に環状に囲まれている。

#### 動物相：

繁殖が確認されている種：ヒゲペンギン (*Pygoscelis antarctica*)、マダラフルマカモメ (*Daption capense*)、シロフルマカモメ (*Pagodroma nivea*)、アシナガウミツバメ (*Oceanites oceanicus*)、ズグロムナジロヒメウ (*Phalacrocorax atriceps*)、オオトウゾクカモメ (*Catharacta* spp.)、ミナミオオセグロカモメ (*Larus dominicanus*)及びナンキョクアジサシ (*Sterna vittata*)。

#### 繁殖が予想される種：

サヤハシチドリ (*Chionis alba*)

ナンキョクオットセイ (*Arctocephalus gazella*) が、定期的に上陸する。ウェッデルアザラシ (*Leptonychotes weddellii*)及びヒョウアザラシ (*Hydrurga leptonyx*) が、海岸近くで見ることができる。ザトウクジラ (*Megaptera novaeangliae*) が沖合で見ることができる。

#### 植物相：

コケ類；オオロウソクゴケ類 (*Xanthoria* spp.)、スミイボゴケ類 (*Buellia* spp.)、ダイダイゴケ類 (*Caloplaca* spp.)、ウスネア類 (*Usnea* spp.) を含む芒を持つ固着性の地衣類種が、スピゴット峰の北に面した斜面と露出した岩場に生息する。

### 訪問者の影響

#### 既知の影響：

なし。

#### 潜在的影響：

野生生物のかく乱及び植生の踏みつけ。



## 上陸要件

### 船舶\*：

乗客500人以下の船舶。一度に1隻の船舶。乗客200人を超える船舶は1日あたり（午前0時から翌午前0時まで）3隻以内。

### 訪問者：

探検ガイドとリーダーを除き、常に上陸は一度に100人以内。訪問者20人あたりガイド1名人。

## 訪問者用地区

### 上陸地区：

鞍部のすぐ下部にありスピゴット峰に続くオーン・ハーバーの入り口から南の海岸に沿って約500m広がる、低い平坦な岩の台地。

### ガイド付き徒歩地区：

鞍部までの経路は、印をつけるかガイドをつけるべき。尾根では、訪問者は厳密に監督されること。

スピゴット峰の頂上へ続く岩の平坦な尾根の北端では、峰の頂上へと続く経路に従えば可能。時に傾斜が急であったり露出した部分があったりするが、経路は最初は岩場であり、その後は雪で覆われている。スピゴット峰へ続く鞍部の上の経路は、氷河で覆われた山での登山経験が十分にある者や訓練を受けている者が、適切な装備を備えた場合のみとするべき。

### 自由散策地区：

上陸地点の周りは平坦な土地が限られているが、訪問者は、監視下で自由に行動することができる。フルマカモメの巣穴への干渉や植生のかく乱を避けるため、緩いかれ場の上は歩かないこと。

## 訪問者の行動規範

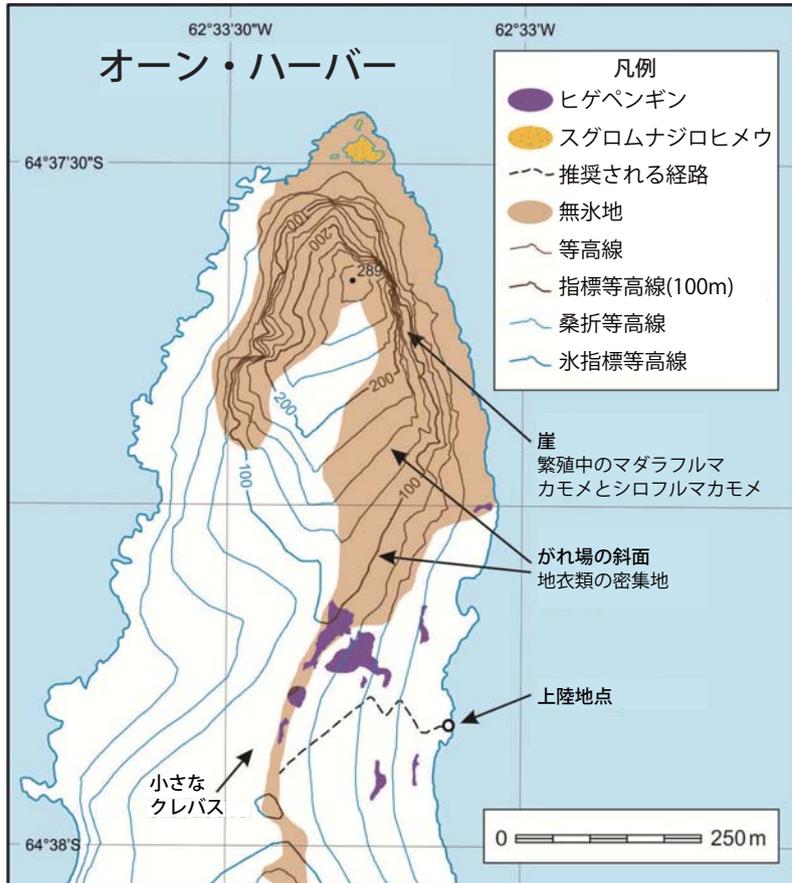
### 上陸後の行動：

訪問者は、「南極訪問者ガイドライン」に従って行動する。上陸地点の至近箇所に巣のあるナンキョクアジサシに注意すること。露出した岩場から離れて移動する際は注意すること。

ヒゲペンギンが、尾根に沿った岩場に営巣している。巣の一部は見にくいことに留意すること。出来る限り、雪の上を歩くこと。岩場の上を歩くときは、コケ及び他の植生への踏みつけを回避すること。フルマカモメの巣穴は緩いかれ場の上にあるため、巣を保護するためそれらの場所は歩かないこと。

### 注意事項：

鞍部のエレラ海峡及びスピゴット峰の万年雪は蛇腹状でクレバスがあり、尾根上でさえも危険である。経路については注意深く確認するとともに、必要であれば訪問は、訓練を受け装備が万全な者のみとするべきである。ボートを運転する場合、上陸地点の近くにある岩場に注意すべき。氷河の崩壊が波を生じさせる場合があることに留意すること。

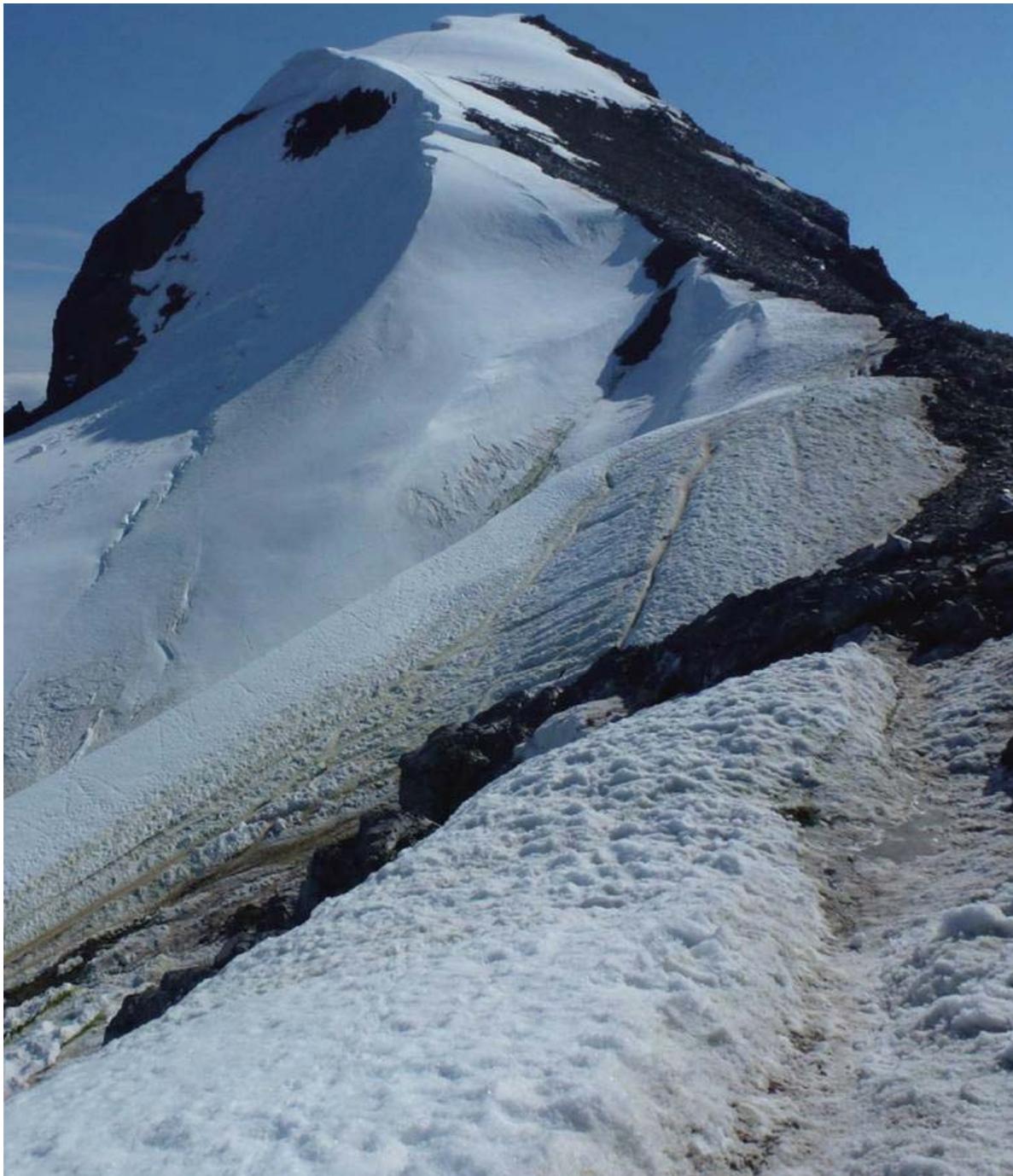




上陸地点（左側）と尾根までの経路の光景

# ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



スピゴット峰に向かう尾根に沿って北に向かう急峻むき出しの経路

# ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



鞍部の頂上と進入路の上には穴が見られる。